

新たな「三重県新エネルギービジョン」の構成（案）

背景

- 世界
- ・今後も新興国を中心にエネルギーの需要は増加傾向
 - ・原油高騰などのリスク
 - ・石油依存は低下しているものの依然として化石燃料に依存
 - ・再生可能エネルギーへの関心の高まり
 - ・化石燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の増加

我が国

- ・エネルギー自給率が低い(2007年で4%)
- ・石油依存は低下(約4割)しているものの依然として化石燃料に依存(約8割)
- ・一次エネルギー供給に占める新エネ・地熱等の割合は約3%、水力も約3%
- ・再生可能エネ導入目標「一次エネルギー供給比10%(2020年度)」の設定
- ・再生可能エネルギーの固定価格買取制度の検討
- ・環境・エネルギーを成長分野とする新成長戦略の策定

三重県

- ・太陽光発電をはじめ、新エネルギー利用のポテンシャルがある
- ・バイオマスをはじめ、導入余地の大きい新エネルギーがある
- ・現行ビジョンで2010年度末に31万klに相当する新エネ導入目標(革新的なエネルギー高度利用技術を含む)
- ・2008年度末実績で約25万kl相当(進捗率約81%)
- ・県内エネルギー消費に対する新エネの割合は約3%

ねらい

化石燃料の代替とエネルギーの安定的な確保

化石燃料の消費抑制による地球温暖化防止への貢献

新エネルギーに関連した県内産業の振興への貢献

理念

新エネルギーを活用した地域におけるエネルギー自給力の向上

県民の新エネルギー導入に対する理解が深まり、地域特性に応じた新エネルギーが積極的に導入されているとともに、限られた資源を有効活用する観点からエネルギーの効率的な利用が進み、地域におけるエネルギー自給力が向上しています。

将来像

新エネルギー導入に対する理解が深まり、県民・事業者あるいは地域がそれぞれの役割を担いつつ、次のような社会となっています。

新エネルギーの導入が進んだ社会

太陽光発電をはじめ、身近な新エネルギーを導入することにより、エネルギー自給力の高い社会となっています。また、これらの分散型発電の導入により、災害時にも強い社会となっています。

環境に配慮した地球にやさしい社会

新エネルギーの導入とエネルギーを高効率で利用することにより、エネルギー消費とこれに伴う二酸化炭素排出量を抑制し、地球にやさしい社会となっています。

新エネルギー関連産業の振興による元気な社会

新エネルギーを導入することによって、新エネルギーに関連する産業が成長し、地域経済が活性化しています。

目標

2020年までに
原油換算で〇〇klに相当する新エネルギーを導入
(県内エネルギー消費の〇%などの表現も検討)

基本方向

【新エネルギーの導入促進】

家庭・事業所における新エネルギーの導入

環境と調和した新エネルギーの導入

まちづくりにおける新エネルギーの導入

新エネルギーに関する人づくり、組織づくり

【エネルギー利用の効率化】

家庭・事業所等における革新的なエネルギー高度利用技術の導入

【新エネルギー関連産業の振興】

新エネルギー関連産業の育成等

基本取組（例）

①住宅等における太陽光発電等の導入促進

②ビル、工場等における太陽光発電等の導入促進

③公共施設における太陽光発電等の率先導入

④風力・中小水力発電施設の導入促進

⑤バイオマス発電・熱利用等の導入促進

⑥バイオマス燃料の利用促進

⑦地域冷暖房など新エネルギーの導入促進

⑧新エネルギーに関する情報提供、普及啓発

⑨新エネルギーに関する人材育成

⑩家庭における高効率給湯器などの導入

⑪企業における生産性向上設備(コージェネなど)の導入

⑫クリーンエネルギー自動車の導入・インフラ整備促進

⑬新エネルギーに関する研究開発の促進

⑭新エネルギーに関する産業の創出・誘致・設備投資促進